

わたしたちの人権

258

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

人権作文の紹介(令和7年度)

今月は、矢部高校 一年 植田晃規
さんと二年 坂本愛羅さんの作文を
ご紹介します。

違いを認め合う

矢部高校 植田 晃規
私は奈良県から熊本県に高校留学
しました。最初は言葉や文化の違い
に戸惑い、「自分だけ浮いているか
もしれない」と感じたこともありま
した。関西では当たり前だった会話
にテンポやノリが通じず、さびし
さを覚えました。

そんな私に、熊本の同級生たちは
関西弁で話しかけてくれたり、熊本
弁を教えてくれたりしました。地元
の子と同じように接してくれたその
姿勢に、私は救われました。話し方
や考え方が違ってても受け入れてく
れるその経験は、私にとって大きな支
えとなりました。この体験を通して、
「人と違う」ということは悪いこと
ではなく、一人ひとりの個性であり、



尊重すべきものだと感じるようにな
りました。もし、相手の違いを「変
だ」と決めつけていたら、今のよう
な関係は築けていなかったと思いま
す。世の中には、見た目や話し方、
性別、国籍、考え方など、さまざま
な「違い」があります。それを理由
に差別されたり孤立したりする人が
今もいます。しかし、本来「違い」は、
人としての権利を否定する理由には
ならないはずです。

私が感じた「受け入れてもらえた
喜び」は、誰もが感じるべきものです。
これから出会う誰かの「違い」にも
偏見を持たず、まず理解しようとし
る姿勢を大切にしたいです。人は皆
違って当然。その違いを認め合
うことが、人権を守る第一歩だと熊
本での経験が教えてくれました。

知ることの大切さ

矢部高等学校 坂本 愛羅
私はこれまでの人権学習を通し
て、様々な差別やいじめには共通の
特徴があるように感じました。それ

は、「何も知らない、知ろうとしない」
ことから差別につながっている、と
いうことです。

私がそのように意識して頭に浮か
べたのは、水俣病に関する差別で
す。決して伝染する病気ではないの
に、誤った知識で多くの方が差別を
受け、苦しめました。また、ハン
セン病患者だった方も同じくひどい
差別を受けました。このように「正
しく知らない」ことが原因で差別に
つながってしまったことが昔から多
くあります。

「知らないこと」が原因で誰かを
傷つけてしまうことは現在でも起こ
ります。例えば、SNS上で見ら
れる情報には、一部だけ切り取られ
たものがよく見られます。その一部
だけの情報を真実だと思い、誰かの
ことを誤って決めつけてしまうこ
と、これも「正しく知らない」こと
から起こる偏見です。また、日常生
活でも、一方からの話だけを聞いて
すべてを理解、納得してしまうこと
があります。これも偏見につなが
る恐れがあると思います。

私たちの身の回りには、このよう
な「知らない、知ろうとしない」こ
とが原因で他人を傷つける恐れがあ
ります。多くの情報を簡単に入手で
きる便利な時代ですが、その中に
は「ウソの」「間違った」情報もあふ
れています。ネット社会の中で、正
しい情報を見極めるメディアリテラ

シーを身につけ、偏見にとらわれな
い生き方を大切にしたいと思います。

ちよつと考えて

結婚や就職の際の身元調査

身元調査とは、個人の身上関係の
情報を収集・調査することです。本
籍地・家系・家族状況・居住環境な
どを戸籍や住民票などで確認した
り、聞き込みなどの方法で行ったり
します。

しかし、こうした身元調査は、憲
法が保障する基本的人権の侵害につ
ながるおそれがあることを理解する
必要があります。

人生の重要な門出となる結婚や就
職に際し、本人の人柄や能力とは関
係がなく、本人の力ではどうにもな
らない血筋や家柄、出身地などを調
査し、その調査結果を理由に結婚に
反対したり、採用で不利益な取り扱
いをするのは、その人を傷つけ人
権を侵害することになります。また、
個人のプライバシーを本人の同意な
く調査し利用することも許されな
いことです。

こうした身元調査は、依頼する側
や調査を行う会社の問題があるのは
もちろんですが、このような調査に
協力しないことも大切です。

自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン